

北方領土ノサップ岬マラソン参加記

小森宏美（早稲田大学）

2015年8月16日、第34回北方領土ノサップ岬マラソンに参加した。北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターの廊下に貼ってあったポスターをみただけで参加を決めたのであるが、前日の登録後に参加者数を見て驚いた。ハーフ一般女子はわずか53名なのである。これはよほど本気の大会なのだろうかとかなり心配になった。参加者の大半は道内のランナーで、多くはどこかのチームに所属して日ごろから走りこんでいるようだ。北海道以外からの参加者もそれなりにおり、遠くは愛媛や福岡からの参加者もいるようである。

16日朝、根室市役所に集合し、バスで順次納沙布岬に向かう。開会式の会場で常連と思しき参加者から昨年の全結果が掲載されている根室新聞を見せてもらおうと、昨年のハーフ一般女子の完走者はわずか40名であった。タイムから見る限り、少なくともハーフについては道内のつわもの(?)が走るレースらしい。



そんな私の心配をよそに、開会式が始まり、淡々とした口調で、しかしきっちり大会の趣旨を表明した長谷川根室市長の挨拶があった。今年の出場者数は過去最多であった昨年を上回るとのことである。そのほかの来賓の挨拶も短めで好ましかった。早々に終わった開会式後、バスを連ねてスタート地点に移動した。時間的にかなり余裕のある運営である。10時50分スタートというのも、この時期に比較的涼しい根室ならではだろう。この日

も、気温は20度を少し越えるぐらいで、日差しはやや強いが、涼しい風が心地よい、マラソン日和であった。



さて、昨年に続きオープン参加の川内優輝選手が、参加者からの拍手の中スタート地点に現れ、いよいよスタートである。スタートの合図とともに、いきなり川内選手が飛び出した。この走りを生で見られただけでも参加したかいたったというものである。

コースは断続的になだらかなアップダウンがあるものの、市街地に入るまではほとんどカーブらしきカーブがない。実は、この道を通るのはこれで3回目であるが、走るのはもちろん初めて。バスの移動では気がつかない集落の様子などが見られるのも、マラソンならではの楽しみである。途中、コースから見えるトーチカを写真に収めることもできた。根室市内に戻ってくると、警察官と交通整理補助の方々が道々に立って、車の交通を適宜止めつつランナーを優先して通してくれる。そうして誘導してくれる傍ら、「がんばれ、もう少し」などの声を掛けてくれるのも嬉しかった。根室市役所横の「心臓破り」の坂を上りきり、ゴール。ゴール後は、表彰式の様子を見つつ、花咲ガニ汁と四島おにぎりをいただいた。心配した女子最下位という不名誉に甘んじることもなく、気持ちよく走らせていただいた皆様に感謝したい。

